

## 車止めポストの発生材と再生材利用による コスト削減とエコ

宮城県土木施工管理技士会  
福田道路株式会社 東北支店  
工事部

賀 澤 貴  
Takashi Kazawa

### 1. 適用工種

道の駅の駐車場部の車止めとして写真-3のよう  
に設置した。

設置箇所はバイアフリー設計であり、車が接触  
しても衝撃を緩和する製品を採用した。

採用したのは、積水樹脂のDK-6シリーズの  
チャイロである。(写真-2)

### 2. 改善提案

通常使用されている車止めポストは金属製が多  
く、車が接触しただけ、車両も車止めも傷がつい  
てしまい、最悪の場合は車止めの交換も余儀なく  
され、維持費がかかるのが現状である。そこで今  
回は、弾性を持った車止めポストの提案を行った。

### 3. 従来工法の問題点

従来の車止めポストは金属製が主なので、車両  
等が車止めポストに直接接触してしまうと、ポス  
トの折れ曲がりやへこみ、または、傷等が発生し  
やすく塗装を塗った物であれば、塗装がはがれ落  
ちて、見た目も良くない状況となる。また、交換  
等の維持費もかかるのが現状である。さらに、接  
触した車両も傷等を負い修理費等が発生する可能  
性が考えられることも懸念材料となってしまう。

### 4. 工夫・改善点

今回の施工箇所は、普通乗用車が利用すること  
を前提としている駐車場なので、車止めポストの  
芯材を発生材のガードレールの支柱(写真-1)  
を採用することで十分に機能を果たせることから、  
施工費(特に材料費)の削減につなげることがで  
きた。

また、設計段階で車止めの目的として、一般車  
両が歩道内に進入させないことが挙げられていた  
が、一般車両を考慮すると1.5m以内の設置もし  
くはチェーン式の車止めによる進入阻止の方法と  
なるため施工費用もかかり設置後の維持メンテナ  
ンス費用もかかる。そこで今回使用した車止め  
(DK-6)は径がφ200mmと大きいものである  
ので、視覚的にも実際より狭く見えるように感じ  
られることから、設置間隔も2.0mと広くして全  
体の設置本数を減らし施工金額を減らす工夫をし  
た。

## 5. 効果

今回採用の車止めポストは、芯材は発生材を利用しさらに本体は廃タイヤチップを使用したりリサイクル商品なので、芯材は施工費の削減につながり、本体は環境にやさしい物となった。

また、この車止めは衝撃を緩和する物でもあるため、設置後3ヶ月後の状態で、車のドア等がぶつかった形跡はあったが、傷等は目立たない状態であった。

設置後に直接触った感じでは、誤って車止めにぶつかった場合でも、金属製に比べれば怪我等の割合は低いように感じられた。

また、反射材の幅も5cm以上あり夜間の視認性も抜群であった。さらに、施工時も芯材はガードレールの支柱を使用したので施工期間も非常に短期間で終わらせることができた。

施工後の感想として、建物等の景観と違和感なく設置されている。



写真-1



写真-2



写真-3

## 6. 適用条件

車止めの芯材として、ガードレールの支柱を利用するので車道・歩道を選ばず設置することが可能であると思う。しかし、車止めでチェーン等を使用しなければならない場合は設置できないので、従来の金属製の製品を使用しなければならない。

## 7. 採用時の留意点

今回採用した車止めは、色が2色（チャイロ・ルレイとイエロー）しかないので、施工箇所の条件・景観等を考慮しながら採用しなければならないと思う。さらに、芯材を発生材のガードレールの支柱ではなく購入品を使用する場合は施工費の検討が必要になってくる。